

令和 3 年度
事業計画書

令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日



定山渓ウインター・キャンプ・フェスティバル
(定山渓自然の村)



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

目 次

I	経営理念	1
II	基本方針	1
III	事業計画策定の基本方針	1
	1 社会課題解決に対応した事業内容の継続展開	
	2 他部門・他団体との業務連携等の推進	
	3 未来ビジョンに基づく事業の展開	
	4 既存業務のデジタル化の推進	
	5 部門別事業収支の適正化	
IV	事業概要	3
	1 青少年の健全育成と社会参加に関する事業	
	2 社会教育の推進に関する事業	
	3 市民活動の振興に関する事業	
	4 その他法人の目的を達成するために必要な事業	
V	S Y A A × S D G s	5
VI	部門別事業計画書	7
	1 児童会館・ミニ児童会館	⟨ 7～8 ⟩
	2 千歳市児童館・学童クラブ	⟨ 9～10 ⟩
	3 やまびこ座・こぐま座	⟨ 11～12 ⟩
	4 若者支援施設	⟨ 13～14 ⟩
	5 滝野自然学園	⟨ 15～16 ⟩
	6 北方自然教育園・定山渓自然の村・青少年山の家	⟨ 17～22 ⟩
	7 札幌エルプラザ公共4施設	⟨ 23～24 ⟩
	8 イベント事業	⟨ 25～26 ⟩
VII	基金事業	27
VIII	施設一覧	28
IX	機構図	29

令和3年度 事業計画

I 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与します。

II 基本方針

1. 青少年の健全育成と社会参加の実現に寄与する
2. 市民活動の振興及び社会教育の推進に寄与する
3. 将来を見据えた組織力の強化を図る
4. 自主事業の拡大を図り、自主財源の確保により安定した法人経営を行う
5. 組織の活性化・効率化に向けた改革を行う

III 事業計画策定の基本方針

1. 社会課題解決に対応した事業内容の継続展開
2. 他部門・他団体との業務連携等の推進
3. 未来ビジョンに基づく事業の展開
4. 既存業務のデジタル化の推進
5. 部門別事業収支の適正化

III 事業計画策定の基本方針 《内容》

(1) 社会課題解決に対応した事業内容の継続展開

財団が継続して事業活動を行うために、様々な社会課題の解決に繋がる事業を提供し、社会に必要とされ続けることが重要である。持続可能な開発目標（SDGs）等、社会課題の解決への貢献に企業等の意識が高まっている現状にあっては、社会のニーズをいち早く察知し、当財団の目的を達成するための事業を積極的に展開する必要がある。また、新型コロナウィルス感染症の拡大により、人々の行動様式や価値観に急速かつ大きな変化が起こっている現状にあることから、この変化を正しく捉えた各種事業の実施方法等の再構築が求められている。

各事業部門においては、各種事業の継続展開と既存事業の実施方法等の再検討を同時に押し進め、社会環境の変化に対応した効果的な事業提供を念頭に置く事業計画を策定すること。

(2) 他部門・他団体との業務連携等の推進

財団の目的を達成するため現行事業の更なる充実を図るにあたっては、各事業部門の優位性を持って、他部門や関係機関等との幅広い情報交換や業務連携を進める必要がある。また、各事業部門が直面している多くの課題や現環境下での最適な事業実施方法等を部門間で共有し、財団全体が一丸となってウィズコロナ時代を乗り越え、その先にあるアフターコロナ時代を見据えた様々な対策に速やかに取り組むことが重要となっていく。

現行の事業実施方法に過度に拘らず、新しい社会にも引き続き貢献できる公益財団法人として、他部門・他団体との情報共有や積極的な業務連携を念頭に置いた事業計画を策定すること。

(3) 未来ビジョンに基づく事業の展開

財団が目指す未来社会の創造にあたっては、当財団の設立趣意や目的などを大切に守りつつ、一昨年に各事業部門で設計した将来像である「未来ビジョン」に向かって、現下の状況にあっても中期的な行動を継続していく必要がある。

青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を担ってきた財団事業の実績を継承し、さらに発展させていく取り組みが重要となることから、当財団の設立趣意や定款に基づく事業展開を意識し、具体的な行動計画を引き続き盛り込んだ事業計画を策定すること。

(4) 既存業務のデジタル化の推進

各事業部門および管理部門が行う受付業務や事務的作業などの省力化・簡略化を目的とした各種システム化の推進に取り組み、利用者の利便性や担当職員の生産性向上を図ることは、業務効率を向上させる観点からもより重要性が増している。また、定例的に実施する各種会議や職員研修に加え、一部の各課事業等についても現環境下においては、対面型とオンライン型を併用する取り組みが行われているが、オンライン型での事業展開によるメリット・デメリットを見極めながら、より高い水準で効果的な活用方法を検討する必要がある。

リアルとデジタルを効率的に併用しながら、業務効率の向上と事業実施効果を高めるための創意工夫を引き続き図ること。

(5) 部門別事業収支の適正化

新型コロナウィルス感染症の影響により、各部門の事業収益が平時より減少することが見込まれる状況となっている。特に利用料金収益や参加料受講料収益については、ほぼすべての事業部門において減少傾向が見込まれているが、強靭（レジリアンス）で持続可能（サステイナブル）な事業運営を行うためには、今後の事業環境を適切に見通しながら、減少を見込む事業収益に見合った人員配置、費用をもって効率的な事業運営を行うことが必要となる。

急速に変化する社会環境に適応しながら、これまでの通常を適宜見直し、危機に強い公益財団法人へと進化できるよう部門別事業収支を適正に保った収支予算の策定を行うこと。

IV 事業概要

- 【定款第4条】 (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
(2) 社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

子ども育成事業

- (1) 青少年活動支援事業
・放課後児童クラブ事業 ・学習活動事業 ・各種講座、講習会
・劇団育成支援事業 ・インターンシップ、各種実習の受け入れ
(2) 体験機会創出事業
・社会奉仕活動事業 ・各団体との共同開催事業
・子どもの体験活動機会を創出する事業
(3) 施設管理運営事業
・児童会館の管理業務、貸室等 ・こども劇場の管理業務、貸室等

若者自立支援事業

- (1) 体験機会創出事業
・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
・交流促進事業 ・ボランティア参加事業 等
(2) 受託事業
・地域若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等
(3) 調査研究事業
・社会的自立に関する調査・研究事業
(4) 施設管理運営事業
・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

自然体験活動事業

- (1) 滝野自然学園事業
・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・情報発信事業
・団体支援事業 ・施設管理運営事業
(2) 北方自然教育園事業
・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業
(3) 定山渓自然の村事業
・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業
(4) 青少年山の家事業
・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

【定款第4条】 (3) 市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

- | | | |
|------------|-----------------|-----------|
| (1) 活動支援事業 | ・男女共同参画啓発事業 | ・市民活動関連事業 |
| (2) 職員派遣事業 | ・N P O活動支援事業 | ・相談 |
| (3) 情報発信事業 | ・大学、専門学校他への職員派遣 | ・支援事業 |
| | ・各種情報誌の発行事業 | |

【定款第4条】 (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・民間企業等から受託したイベント
企画運営等事業
- ・物品貸与等事業

**他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、
公益目的外での施設貸与事業**

- ・札幌エルプラザ公共4施設、
定山渓自然の村、青少年山の家の管理運営
- ・こども劇場、若者支援施設における
公益目的外での施設貸与事業



地域社会の発展に貢献し
人々の幸せと豊かな生活を
実現するために。



SDGsとは

2015年、国連は持続可能な世界を実現するため、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を定め、17の目標を設定しました。

政府・企業・自治体・そして私たち一人ひとりが、未来の世界をより良くするために協力しあい「誰も置き去りにしない」世界を目指すための行動目標です。



活動協会 × SDGs

私たちはこれまで、子どもから大人まで、さまざまな方を対象に、学習機会や自然体験に関わる機会の提供、生活困窮世帯への支援、ジェンダー平等や自然環境の保全に向けた啓発活動など、幅広い活動を行ってきました。これらの事業活動を通して目指すものは、国連が定める「SDGs」が目指すものと同じ「より良い社会の実現」です。そのため、私たちが事業の発展に向けて邁進することそのものが、SDGsの達成に直接つながると考えています。

当財団は40周年という大きな節目を迎えました。今後も、SDGsの達成に向けて取り組むすべての人とともに未来がより良くあるためにできることを考え、責任をもって行動していきます。



経営理念 × SDGs

SYAA の定款に掲げる目的と密接に関連している目標は「目標 4. 質の高い教育をみんなに」と「目標 11. 住み続けられるまちづくりを」で、これらは各施設が行う事業において共通して取り組んでいるものです。また、全ての事業活動に必要な共通の考え方として「目標 17. パートナーシップで目標を達成しよう」を位置づけています。



4 つの事業 × SDGs

【1. 青少年の健全育成と社会参加に関する事業】



- ・児童会館・ミニ児童会館
- ・千歳市児童館・学童クラブ
- ・やまびこ座・こぐま座
- ・若者支援施設
- ・滝野自然学園 (p7~16)



【2. 社会教育の推進に関する事業】

- ・北方自然教育園
- ・定山渓自然の村
- ・青少年山の家

(p17~22)



SYAA

【3. 市民活動の振興に関する事業】

- ・札幌エルプラザ公共 4 施設

(p23~24)

【4. その他法人の目的を達成するために必要な事業】

- ・イベント事業

(p25~26)

VI 部門別事業計画書

こども事業課・こども育成課

札幌市児童会館・ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

事業方針

すべての子どもの笑顔があふれる活動拠点を地域とともににつくります

多種多様な状況や価値観を認め合い、子どもたちが自分らしく過ごせる居場所づくりを進める。また、あそびや体験等の主体的活動を推進するとともに、地域・関連機関・保護者等と連携し、子どもたちの心身の育ちの場を広げる。

児童会館一体管理のスケールメリットを活かした効率的な運営の推進と併せて、経費削減に努め、計画的な予算執行に取り組む。

□生活困窮世帯の中学生の居場所の確立

札幌まなびのサポート事業「まなべえ」をとおして、基礎的な学力の向上や高校進学の促進を図るための学習支援を行う。また、各部門と連携し、中学校卒業後の支援に向けた取り組みを推進する。

□子どものくらしを支える相談支援体制の充実（※こども事業課のみ）

子どものくらし支援コーディネート事業をとおして、困難を抱えているこどもや家庭を早期に発見し必要な支援につなげる。

重点目標

地域活動等事業

□各企業・団体とのネットワークを拡大し、日常的かつ双方向での運用を推進する。

□事業収支の適正化を図る。

□あそびを通じた子どもの日常生活支援と発達支援を行う。

□子どもと子育て家庭が抱える課題の早期発見と対応力の強化に努める。

□子ども運営委員会の役割や効果の検証に基づき、子どもの権利を大切にし、自己実現をとおした成長の機会につなげる。

□全道・全国との連携を強化し、行政の動向把握と将来構想へ向けた取り組みを行う。

□未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す。

□こども育成課ミッション及びビジョンを職員に浸透させる。

（こども事業課）
数値目標

【共通目標】

①事業プログラム参加者総数

令和3年度	650人	令和2年度	600人(見込)
-------	------	-------	----------

②利用者アンケートにおける満足度(5段階)

令和3年度	4.0	令和2年度	4.5(見込)
-------	-----	-------	---------

【部門目標】各種企業・団体等新規関連ネットワーク団体数

令和3年度	5団体	令和2年度	9団体(見込)
-------	-----	-------	---------

（こども育成課）
数値目標

【共通目標】

①利用者総数

令和3年度	2,935,000人	令和2年度	2,678,000人(見込)
-------	------------	-------	----------------

②事業プログラム参加者総数

令和3年度	568,000人	令和2年度	437,151人(見込)
-------	----------	-------	--------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和3年度	80%	令和2年度	85%
-------	-----	-------	-----

【部門目標】

①地域連携事業の取り組み

令和3年度	1回以上/年(1館) 200回/年(全館)	令和2年度	1回以上/年(1館) 200回/年(全館)(見込)
-------	--------------------------	-------	------------------------------

こども事業課

事業内容	時期・回数
<p>1 青少年活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「まなべえ」） ・子どものくらし支援コーディネート事業 	6月～3月 37回程度/各会場 通年10区87エリア
<p>2 体験機会創出事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験機会フォロー事業 ・興味・関心創出事業 ・社会参加・貢献事業 ・調査・研究事業 	通年・5件/通年・3件 通年・3事業 通年
<p>3 施設管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会館運営に関する事業 	通年

こども育成課

事業内容	時期・回数
<p>1 青少年活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ事業 ・学習支援事業（札幌まなびのサポート事業「まなべえ」） ・中・高校生夜間利用等運営事業「ふり→たいむ」 ・子育てサロン事業 ・児童会館実習指導業務 ・他課連携事業 ・子ども運営委員会（全館統一事業） 	※実施時期・回数については各会館により異なるため省略
<p>2 体験機会創出事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業体験事業「ドリーム・ジョブ・スクール」 ・講習会・発表会（各種講座・クラブ活動発表会等） ・東Ⅱブロック合同行事「オンライン交流会」 ・鑑賞会（人形劇、読み聞かせ、映画、ビデオ上映等） ・社会奉仕活動（ゴミ拾い、施設訪問、防犯・防火活動等） ・交流事業（世代間・地域交流、お泊り会等） ・リーダー育成事業 ・季節行事・パーティー（歳時事業、お祭り等） ・野外・自然体験活動（キャンプ事業、畑づくり、遠足、登山等） ・伝統芸能活動（伝承あそび、生け花、茶道・将棋・華道教室等） ・体力増進・スポーツ（日常あそび、外遊び、一輪車等） ・学習活動 ・創作活動 ・読書活動 ・環境活動 ・合同事業 ・外部連携事業 ・N P Oとの連携事業 ・周年事業 ・広報活動 	
<p>3 施設管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸室事業、危機管理事業等 	

札幌市児童会館・ミニ児童会館

×

SDGs



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

事業方針

信頼を得る児童館・学童クラブ運営と財団認知度の向上

令和3年4月より開始となる「千歳市児童館・学童クラブ事業」の運営を起点に、子どもと保護者の安心・安全な居場所、地域住民が気軽に集う施設を目指し、児童館等の活動に理解や協力を得られる関係性の構築に努め、「地域を愛し、地域に愛される子どもの活動拠点づくり」を着実に進める。

また、「さっぽろ連携中枢都市圏」における事業展開を見据えて、千歳市内での確実な実績作りに加え、近隣地域や企業、行政等に対して組織が持つ専門性を広くアピールすることで、当財団の認知度向上を目指す。

地域活動等事業

□千歳市、市内地場企業への宣伝活動

財団の各部門が持つ専門性や提供可能な事業を理解し、千歳市や市内地元企業等へ積極的な広報活動を行う。また、千歳市ならびに近隣地域が持つ社会課題や市民ニーズ、地域資源を発掘し、広く社会へ貢献する事業展開へと発展できるよう財団の知名度向上に努める。

重点目標

施設運営等事業

□継続性を重視した円滑な業務移行

事業受託初年度は、確実な業務移行を遂行することで事業者変更に伴う市民サービスへの影響を最小限に留め、児童館・学童クラブに関わる全ての人から信頼を得ることに努めるほか、行政職員や地域関係者との情報交換等を適宜実施し、更なるサービス向上に向けた取り組みを検討する。

□地域と交わる施設運営

新たに配置される館長が施設のセールスマンとなり、児童館・学童クラブの魅力を地域へ発信し、近隣住民や利用者との対話などを大切にしながら、誰もが利用し交流できる施設づくりを行う。また、これまでに千歳市児童館・学童クラブが積み重ねてきた行動実績を早期に把握し、札幌市児童会館の運営手法をえた新たな運営方法を模索し、より良い事業運営へと発展させる。

□千歳事業所機能の確立

千歳事業所にかかる経理・庶務等の管理業務を確実に実行する。また、財団本部との役割分担など懸案事項を整理して、各種業務を高いレベルで実行できる事務所機能を早期に確立させる。

【共通目標】

①利用者総数

令和3年度

147,900人

※令和2年度は147,776人（見込）

②事業プログラム参加者総数

令和3年度

5,200人

※令和2年度は未実施

③利用者アンケートにおける満足度

令和3年度

80%

※令和2年度は未実施

数値目標

【部門目標】

①連携事業実施に向けた千歳市周辺企業

・商店・大学等への訪問

令和3年度

10社

②児童館運営協議会の設置

令和3年度

2館

事業内容	時期・回数
<p>1 青少年活動支援事業 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館事業 ・学童クラブ事業 ・地域子育て支援拠点事業 ・中高生タイム事業 ・子ども運営委員会 	通年
<p>2 体験機会創出事業 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・全館統一事業（児童館まつり） ・企業連携事業（企業連携ぷちゼミ、子育てスキルアップ講座等） ・他館連携事業（札幌市の児童会館との交流、パッケージ行事等） ・子育て相談（コンシェルジュ相談会、茶話会等） ・交流事業（長期休みランチデー事業、地域行事への参加等） ・親子交流事業（遠足行事、観劇等） ・講習会（食育等をテーマとした講習会、育休ママパパ講座等） ・季節行事（新一年生歓迎会、クリスマス会等） ・野外・自然体験活動（野外活動体験、自然素材を活用した工作等） ・鑑賞会（読み聞かせ、映画鑑賞等） ・学習活動（学習タイム、社会見学等） ・体力増進・スポーツ（ミニ運動会、ボール遊びや縄跳び等） ・広報活動 ・調査・研究事業 	※実施時期・回数については各館により異なるため省略
<p>3 施設管理運営事業 </p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館・学童クラブ運営に関する事業 ・危機管理事業 	通年



こども劇場課

札幌市こどもの劇場やまびこ座 札幌市こども人形劇場こぐま座



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり

こども劇場は、子ども文化を鑑賞、発信、創造する「地域の文化拠点」として、人形劇や児童劇などの様々な事業を行っており、令和3年度にはこぐま座45周年の節目を迎える。

コロナ禍で見えてきた課題を克服し、子どもたちが文化芸術にふれる機会を継続的に確保できるよう、隣接する中島児童会館や各劇団、アーティストとともに持続可能な劇場づくりを目指す。

また、移動体験型人形劇や雪上ステージ公演などの野外を含めたあらゆる劇場空間の演出に挑戦し、将来における劇場のあり方を模索しながら、子どもたちをはじめとする多くの市民が豊かな心をはぐくみ、明るい未来を描くことができる取り組みを推進する。

重点目標

施設運営等事業
地域活動等事業

□子ども文化の拠点

全国的に見ても数少ない子どもの専門劇場として、文化芸術の力を実感する事業を開拓し、地域の文化活動をリードしていく。また、良質な舞台芸術の創造発信、継続的な文化体験機会の創出を図り、子ども文化の必要性を社会に伝える。

□人づくりが文化を育てる

文化芸術を継承する人材の養成を劇場運営の根幹に据え、子どものための人形劇や児童劇、伝統芸能等の担い手である市民劇団を育成する。その市民劇団により、劇場は単に鑑賞の場としてだけでなく創造の場としての機能が加わり、様々な人が交わる地域コミュニティの発展を支える場を形成する。

数値目標

【共通目標】

①利用者総数（やまびこ座／こぐま座）

令和3年度	55,000人／15,000人	令和2年度	21,000人／10,200人(見込)
-------	-----------------	-------	---------------------

②事業プログラム参加者総数

令和3年度	24,000人	令和2年度	12,500人(見込)
-------	---------	-------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和3年度	85%	令和2年度	99%(見込)
-------	-----	-------	---------

【部門目標】

①新規人形劇団の誕生及び育成

令和3年度	3劇団	令和2年度	5劇団(見込)
-------	-----	-------	---------

②年間上演日数及び公演数

令和3年度	やまびこ座・こぐま座ともに 上演120日・公演200回	令和2年度	やまびこ座108日・152回(見込) こぐま座76日・101回(見込)
-------	--------------------------------	-------	--

③中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室『MA・SO・BO』年間利用者人数

令和3年度	10,000人	令和2年度	3,500人(見込)
-------	---------	-------	------------

事業内容	時期・回数
<p>1 青少年活動支援事業</p> <p>(1) 人材育成事業（一般対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初心者のための人形劇講座、経験者のための人形劇クリニック ・東区市民劇団育成事業 ・人形浄瑠璃講習会 ・義太夫講習会（一般クラス） ・人形浄瑠璃体験ワークショップ ・指導育成事業 砂川人形劇創作体験プログラム ・舞台スタッフ指導事業 ・劇団育成支援事業 ・中島児童会館一体連携事業 （「子どものまなび塾」「子どもの文化セミナー」他） <p>(2) 人材育成事業（子ども対象）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第29期 やまびこ座遊劇舎 ・第19期 劇☆やまびこ座 YOUTH ・ざ・にんぎょうじょうるりユースクラス ・こぐま座こども人形劇団 ・パペットユーススクール ・こども舞台体験プログラム「ふれアート」 ・やまびこ座・こぐま座野外人形劇シリーズ ①こぐま座45周年 ②おととで人形劇場 ③冬の野外人形劇 	4~7月 13回／8~3月 20回程度 6~10月 25回 6~12月 17回／5~12月 13回 6~10月 3回程度 5~3月 20回 通年／通年 9~2月 18回／7~12月 3回 5~12月 30回 5~1月 35回 6~12月 17回 5~3月 40回／6~1月 30回程度 6~1月 3プログラム（計3回） ①9月 2回（2日間）②18回 ③2月 6回（3日間）
<p>2 体験機会創出事業</p> <p>(1) 地域連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021 やまびこ座夏まつり ・さっぽろアートステージ（シーターゴーラウンド2021） ・中島児童会館協働事業「かもくま祭」 ・元町北小学校アウトリーチ事業 ・読み語りの会 <p>(2) 公演事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぐま座45周年記念 札幌国際人形劇フェスティバル ・伝統芸能『座・競演シリーズ』 ・やまびこ座プロデュース公演 ・第50回札幌人形劇祭 他 <p>(3) その他事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形劇スタンプラリー ・物品販売事業 ・事業サポーター制度 ・市民ボランティア「やまびこ座たのしませ隊」 ・こども若者事業部連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ①人形劇クラブの指導および育成 ②被災地支援活動 ③応援☆児童会館～おでかけ人形劇 ・子どもの劇場通信 ・やまびこ座こぐま座LINE通信 他 	7/31~8/1 1回（2日間） 11~12月 1回 ①7月 1回（2日間） 6~10月 各5回程度／通年 40回 7~3月 30回程度 10月 公演2回ワークショップ1回 11~3月 31回／11月 1回（3日間）
<p>3 施設管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども劇場の管理運営業務、貸室事業、入場料の徴収 	通年

子どもの劇場 やまびこ座
子ども人形劇場 こぐま座
× SDGs





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

居場所のサイコウ（再考・再興）と新たなステージへの飛躍

コロナ禍により、若者の中には生活そのものへの安心感やコミュニケーションの機会を失った者も多く、「社会と関わり、自己実現していく」ステージに向き合うことが困難な状況が顕在化している。このような状況を踏まえ、令和3年度は「若者の失われた居場所と機会」を取り戻す取り組みを実施する。「居場所機能の拡充」事業では、施設利用経験のない若者や、他者とのつながりを求めている者にスポットを当てるほか、オンライン環境を積極的に活用することで、様々な若者と出会うことに注力する。また、「若者の社会参加」事業として、若者自身が多様な価値観に触れながら、社会に声を届ける機会を創出する。

いずれについても、当施設がこれまで築いた経験を活かし、リーダーシップを発揮しながら市民の方との協働を進め、「誰一人取り残さない若者支援」のネットワークの構築を目指していく。

重点目標	等事業 地域活動	□若者の居場所機能の拡充およびユースワークの理念の共有について、複数年度で達成されるものと考え関係づくりに臨む。
	施設運営等事業	<p>□若者自身が「子ども・若者の権利」を自然な形で体感できる機会を増やし、意見表明によって社会が変わる実感を獲得できる仕組みをスマールステップで展開していく。</p> <p>□さっぽろの若者支援のトップリーダーとして事業を推進し、「発信力」と「影響力」を高める。</p> <p>□デジタルリソース・データを最大限に活用した効率的・効果的な運営を行う。</p>

【共通目標】

①利用者総数

令和3年度	285,000人	令和2年度	182,376人(見込)
-------	----------	-------	--------------

②事業プログラム参加者総数

令和3年度	53,500人	令和2年度	35,571人(見込)
-------	---------	-------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和3年度	96%	令和2年度	97%(見込)
-------	-----	-------	---------

数値目標

【部門目標】

①利用証の発行を受けた若者数

令和3年度	15,800人	令和2年度	10,547人(見込)
-------	---------	-------	-------------

②若者登録者延べ人数

令和3年度	220,000人	令和2年度	144,582人(見込)
-------	----------	-------	--------------

③新規に相談を受けた自立支援登録者数

令和3年度	400人	令和2年度	276人(見込)
-------	------	-------	----------

④進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数

令和3年度	345人	令和2年度	274人(見込)
-------	------	-------	----------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援相談 ・自立支援プログラム ・社会体験機会創出事業 ・中学校卒業者等進路支援事業 ・セミナー等の開催 ・地域若者サポートステーション事業 ・子ども・若者支援地域協議会 ・情報コーナーの設置 ・ホームページ管理 他 	
<ul style="list-style-type: none"> (2) 交流促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・若者団体ネットワーク構築 ・若者の交流相談（ロビーワークの実施） ・出張ユースワーク事業 ・キッチンカー事業 ・Youth+にじーず札幌 ・他都市との交流実践・意見集約 他 	 <ul style="list-style-type: none"> 通年 隨時
<ul style="list-style-type: none"> (3) 社会参加促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域若者サポーターの獲得と協働 ・学習支援ボランティアの養成 ・さっぽろ青少年女性活動協会連携事業 ・オープンミーティング ・ユースワーカー養成講座 ・子ども・若者の権利フォーラム ・社会共創ワークショップ 他 	 <ul style="list-style-type: none"> 通年 隨時 通年 隨時 通年 10校 通年 隨時 通年 月1回 通年 4回程度
2 受託事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域若者サポートステーション事業 ・白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営事業 	
3 調査研究事業 <ul style="list-style-type: none"> ・若者の意識・実態把握および施設利用者満足度測定アンケートの実施 ・若者の声発信 ・テーマを決めた調査・研究 ・若者を取り巻く環境の調査 他 	<ul style="list-style-type: none"> 10月 1回 通年 隨時 通年 3回 通年 隨時
4 施設管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務 ・若者施設貸室事業、物品貸出 他 	
5 その他の事業 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ・実習生の受入れ ・視察受け入れと講師派遣 ・若者の住居支援事業 他 	 <ul style="list-style-type: none"> 通年 隨時 通年 隨時 通年 隨時

札幌市若者支援総合センター

・札幌市若者活動センター

× SDGs





事業方針

財団内外で必要とされる課に

企画事業課は、各種団体や企業からイベントやキャンプを中心とした事業を受託し活動の幅を広げてきたが、新型コロナウィルス感染症の蔓延により一定人数以上が集まることや一部宿泊事業の実施が困難となっている。

このような状況の下、令和3年度は、コロナ禍によって大きく変化した人々の行動様式や価値観の現状を正しく捉え、事業の実施方法等を見直すことで新たな形の事業展開を行う。併せて、他部門との情報交換や事業連携を進めながら、当課の取り組みを財団全体に広く周知し行き渡らせることで、地域社会に還元していく。

重点目標

地域活動等事業

- 収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。
- 魅力ある施設周辺フィールドを生かした自然体験プログラムの提案等、PR活動を進め、財団内外の新規、リピートの利用促進を図る。
- 関連NPO団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営、事業展開を目指す。
- 自主事業の拡充や幅広い分野からの指導事業受託を図る。

【共通目標】

①利用者総数

令和3年度	2,400人	令和2年度	1,900人(見込)
-------	--------	-------	------------

②事業プログラム参加者総数（主催事業）

令和3年度	1,500人	令和2年度	1,000人(見込)
-------	--------	-------	------------

③参加者アンケートにおける満足度

令和3年度	95%	令和2年度	96% (見込)
-------	-----	-------	----------

【部門目標】

①財団内利用件数

令和3年度	20件	令和2年度	3件(見込)
-------	-----	-------	--------



事業内容	時期・回数
<p>1 体験機会創出事業</p> <p>自然体験活動事業</p> <p>【幼児対象事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきの森のようちえん 他 <p>【小学生対象事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきの森のがっこう ・川のがっこう ・チャレンジキャンプ ・課題を抱える青少年を支援する体験活動プログラム 他 <p>【親子等対象事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーキャンプ 他 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験活動ボランティア登録事業 ・滝野自然学園利用促進事業 他 	5～3月 25回
	5～2月 18回
	6～9月 3回
	6～2月 4回程度
	未定
	4～1月 10回程度
	通年 20回程度
	通年
	通年
2 職員派遣事業	
・その他の指導業務 他	通年
3 施設管理運営事業	
・滝野自然学園プログラム開発	通年
・滝野自然学園の管理運営、貸室事業等	通年



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

事業方針

農業体験を中心とした体験活動の安定的な提供

北方自然教育園は「学校教育における自然体験活動機会の提供」を第一義とし、札幌市の野外教育施設としての役割を担う。特に、当施設が有する水田や畑、果樹園を活用した農業体験を中心とする体験活動機会の提供に注力し、持続可能な社会に対する理解を深める。

また、学校教育をサポートする施設として、引き続き教材用生物を安定的に供給するほか、コロナ禍においても自然体験に関わる学習支援を行うため、小・中学校等に向けた学習補助教材の継続的な開発と有効活用の新たな形に取り組む。

地域活動等事業

- 市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。
- 地域住民との関係性を深めるための事業を実施する。

重点目標

施設運営等事業

- 小中学校の体験学習への安定的な機会提供と、学習機会の強化を行う。
- 生物教材配付の生物飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給を行う。
- SNS、HP、オンライン会議等を活用し、小中学校に対する事前・事後学習の支援を行う。
- 学びの農園（Learning Garden）実施に向けた調査研究を行う。
- 野外施設部内の連携強化と、他セクションの強みを生かした事業連携強化を図る。
- 特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携を進める。

【共通目標】

①利用者総数

令和3年度	6,500人	令和2年度	4,334人(見込)
-------	--------	-------	------------

②事業プログラム参加者総数

令和3年度	500人	令和2年度	442人(見込)
-------	------	-------	----------

③利用者アンケートにおける満足度

令和3年度	85%	令和2年度	86%(見込)
-------	-----	-------	---------

数値目標

【部門目標】

①小中学校を対象とした体験農場実施校数（延べ数）

令和3年度	53校(3,000人)	令和2年度	26校(881人)(見込)
-------	-------------	-------	---------------

②学習館入館の料金収入維持

令和3年度	123,000円	令和2年度	123,000円(見込)
-------	----------	-------	--------------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業	
(1) 地域活動等事業	通年 通年 10月 4回 2月 1回
・団体指導事業 ・社会的課題解決事業 ・児童会館誘致事業 ・自然環境関連セミナー	
(2) 施設運営等事業	5～11月 隨時 6月 1回
①体験農場の機会提供に関する事業 ②生物教材提供に関する事業 ③自然体験学習の提供に関する事業	
・北方フルーツファーム ・北方ファーム ・トンボの観察会 ・自然素材のクリスマスリース作り ・新年しめ飾りづくり ・家族でわくわく貝化石観察会	6、10月 4回 5、7、8月 6回 8月 1回／11月 1回 12月 4回／7月 1回
④情報の収集および提供に関する事業 ⑤市民の自主的な活動及び交流の支援	通年
・市民ボランティア事業 ・教育機関支援事業	通年／通年 隨時
⑥自然体験や展示に関する相談業務	通年 隨時
⑦その他設置目的を達成するために必要な事業	
・森と池の生き物たちを観察しよう～夏休み親子観察会～ ・他施設・団体連携事業 ・教職員研修事業 ・ロビー展示 ・大人の学び舎「山野草講座」 ・親子サクランボ採取とジャム作り体験 ・フルーツ・スイーツ俱楽部 ・北方スノーシューワニ鳥観察&自然観察 ・簡単工作会 ・広報業務 ・調査・研究 他	8月 1回 通年 7月 1回 通年 隨時 5月 1回 7月 2回 9月 1回 1～3月 隨時 通年 隨時 通年 隨時
2 施設管理運営事業	
・北方自然教育園の管理運営	通年





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

野外教育施設としての可能性を最大限に高めるために

定山渓自然の村は、札幌都市圏における「自然体験活動の発信拠点」として、人々と自然や地域の歴史・文化の繋がりを伝えるインタープリターの役割を担ってきた。

令和3年度、当施設では、目下のコロナ禍など、社会環境の変化により市民が求める体験活動やレクリエーション活動が多様化している状況を踏まえ、自然体験活動に関する専門知識や手法（グループワーク）の重要性を再認識し、これまで積み重ねてきた施設運営の経験と事業ノウハウを軸に「自然体験との関わりが人にとって必ずプラスに作用する」ことを念頭に置いた自然体験活動の新たな価値と可能性を見出していく。

地域活動等事業	<ul style="list-style-type: none"> □施設利用の領域拡大に向けた平日利用者向けの提供プログラムを開発する。 □札幌市内の児童に対する自然体験活動プログラムの提供を行う。
重点目標 施設運営等事業	<ul style="list-style-type: none"> □自然体験活動に対して特別な支援を必要とする児童、団体、家族、グループを対象としたスペシャルニーズキャンプの実践とプログラム開発を行う。 □冬季利用促進を目的とした事業を実施する。 □他団体や企業との連携を強化し、利用促進に繋がる教育的効果の高い事業を多様な手法を用いて実施する。 □野外施設部内の連携と、他セクションの強みを生かした事業連携の強化を図る。

【共通目標】

①利用者総数

令和 3 年度	15,000 人	令和 2 年度	13,500 人(見込)
---------	----------	---------	--------------

②事業プログラム参加者総数

令和 3 年度	2,000 人	令和 2 年度	1,820 人(見込)
---------	---------	---------	-------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和 3 年度	98%	令和 2 年度	98.5% (見込)
---------	-----	---------	------------

【部門目標】

①冬季野外活動促進（下期利用率）

令和 3 年度	31%	令和 2 年度	29% (見込)
---------	-----	---------	----------

②セルフモニタリング調査（実施件数）

令和 3 年度	400 件	令和 2 年度	400 件(見込)
---------	-------	---------	-----------

③実践型森林環境教育の推進（参加人数）

令和3年度	550人	令和2年度	500人(見込)
-------	------	-------	----------

④貿至業務

令和 3 年度	15,766 千円	令和 2 年度	12,104 千円(見込)
---------	-----------	---------	---------------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業	
(1) 地域活動等事業	
・ようこそ児童会館	通年 隨時
・定山渓でストレッチと森歩き	5~9月 2回
・定山渓スノーシューツアー	1~3月 隨時
・提案型団体誘致事業	通年 隨時
(2) 施設運営等事業	
①利用者支援事業	
・教育機関宿泊活動支援事業	通年 隨時
・団体指導事業	通年 隨時
・森の観察会	学校長期休業期間、日曜日
・飯ごう・羽釜ご飯体験会	通年 隨時
・キャンプファイヤー	5~12月／通年・隨時
・森の工作会	1~3月／7~9月
・ナイトハイク	通年 隨時
・ドラム缶風呂体験	通年 隨時
・石窯料理体験	5~10月 隨時
・銀河の会	
・わくわくラリー	
・遊歩道クイズ	
②地域の文化を伝え振興を図る事業	
・フルーツ・スイーツ俱楽部	11月 1回
③学びの場を提供する事業	
・スペシャルニーズキャンプ	通年 3団体
・森の図書館	6~10月／通年 4回
・森の探検隊	6、8、10、12月 4回
・昆虫博士キャンプ	8月 1回
・昆虫博士キャンプ中学生	通年
・社会的課題解決事業	
④新たなライフスタイルの提案を行う事業	12月
・ヴィレッジ・クリスマス	
⑤野外教育・環境教育に携わる人材を育成する事業	通年
・インターンシップ	
・ボランティアスタッフ育成	
⑥野外での子育て支援を行う事業	
・親子で冬キャン！！	2月 1回／6、12月 2回
・親子で『コソ練』キャンプ	6、9月 2回／7、2月 2回
・ようこそファミリーキャンプ	
・定山渓森のようちえん	
⑦その他、施設運営目的を達成するために必要な事業	
・定山渓ウインター・キャンプ・フェスティバル	2月 1回
・他施設・団体連携事業	通年 隨時／通年 4回
・平日利用促進事業	
・定山渓遊々の森再整備計画	通年 隨時
・ウィズコロナ対策関連事業	通年 隨時
・アウトドアクッキング	通年 随時
・アウトドアプレミアムクッキング	通年 2回
・広報、プレスリリース	通年
・調査、研究	
2 施設管理運営事業	
・定山渓自然の村管理業務、貸室事業、物品貸出等	通年

札幌市定山渓自然の村

×
SDGs





公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 その他法人の目的を達成するために必要な事業

事業方針

ONLY ONEを目指して→ +ONE（プラスワン）を！

青少年山の家は、自然の中の集団宿泊生活をとおして、子どもたちの豊かな心と創造性を育む、野外活動の拠点としての役割を担っている。

令和3年度も引き続き、未来ビジョンに基づく事業展開を進める。施設機能（自然体験、集団生活、野外活動研修）を基軸としたより教育的効果の高いプログラムを開発・提供することで利用団体の活動を支援し、併せて新型コロナの感染やヒグマ侵入等に留意して安心・安全な環境づくりに努めることにより、あらゆる世代の多くの方々から信頼される施設を目指す。

重点目標

等
域
事
業
活
動

- コロナ禍の状況に合わせて新たなプログラム開発に継続的に取り組む。
- プログラム提供回数の増進に取り組む。

施
設
運
営
等
事
業

- 持続可能な社会繁栄に向けたSDGs事業を推進する。
- 新規プログラムを提供し、内容と満足度の向上を図る。
- 部門内外、他団体、地域との連携を強化し、事業発展の可能性を拡大する。
- 閑散期（4月、11月、12月、3月）を中心とした利用促進を図る。
- 市民のニーズを反映し、より必要とされる施設を目指す。

数
値
目
標

【共通目標】

①利用者総数

令和3年度	45,500人	令和2年度	17,151人(見込)
-------	---------	-------	-------------

②事業プログラム参加者総数

令和3年度	8,000人	令和2年度	2,954人(見込)
-------	--------	-------	------------

③利用者アンケートにおける満足度

令和3年度	95%	令和2年度	90%(見込)
-------	-----	-------	---------

【部門目標】

①利用のしやすさに対する満足度

令和3年度	88%	令和2年度	89%(見込)
-------	-----	-------	---------

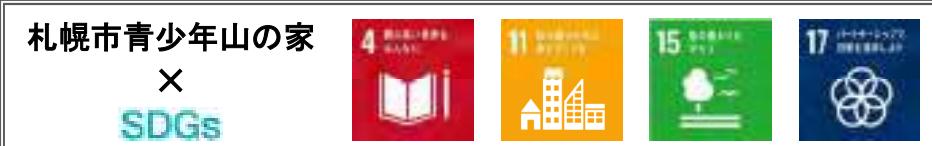
②実利用人数

令和3年度	27,000人	令和2年度	10,310人(見込)
-------	---------	-------	-------------

③閑散期の一般利用団体数

令和3年度	30団体	令和2年度	利用実績なし
-------	------	-------	--------

事業内容	時期・回数
1 体験機会創出事業	
(1) 青少年キャンプ事業	通年
・野外教育プログラム普及・開発事業	9~10月 3回
・青少年の抱える課題解決に向けた事業	6月、2月 2回
・大人も子どもも宿泊学習	
(2) 生涯学習事業	通年
・自然体験プログラム提供事業	通年
・パッケージドプログラム出張事業	通年
・地域交流事業	隨時
・利用団体プログラム指導	通年
・生活体験プログラム提供事業	通年
(3) 人材育成事業	通年 2回程度
・指導者ワークショップ	通年 12回程度
・ボランティア活動支援事業	
・インターンシップ受入れ事業	適宜
(4) 団体支援事業	
① 活動支援事業	通年 隨時
・合同下見会および個別下見対応事業	4~2月 100校
・出前授業	
② 利用促進事業	通年
・情報発信事業 ・学校利用ナビ	
2 施設管理運営事業	
・青少年山の家管理業務	通年
・青少年山の家貸室事業、物品貸出等	通年



事業方針

まちの活力を高める活動の拠点～多様性に富んだ市民との共創

令和3年度は「動く！エルプラザ」をモットーに、男女共同参画センター、市民活動サポートセンター、環境プラザ、情報センターが協働し、まちの活力を高める取り組みを行う。

各事業の実施にあたっては、利用者とのコミュニケーションをより密にすることで、人と人とのネットワークの拡充を進めるほか、新型コロナ由来の貧困を含めた様々な社会課題に目を向け、市民やNPO団体、企業等が情報共有する機会を設けるなど、課題解決につなげていけるよう支援を行う。また、施設管理においては、複合施設の利点を活かし、デジタルツールを活用した施設管理業務の適正化、市民対応業務の共通化を図り、時代のニーズに合わせたサービス水準の向上に努める。

重点目標	等事業 地域活動	次の時代を見据え受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る。
	地域活動等事業	<u>男女共同参画センター事業</u> <ul style="list-style-type: none"> □ ジェンダー平等達成に向けた取り組みを行う。 □ 子ども・若者のエンパワメント事業を実施する。 □ ワーク・ライフ支援を行う。 <u>市民活動サポートセンター事業</u> <ul style="list-style-type: none"> □ 次世代活動者の堀り起こしと支援を行う。(人材養成、コーディネート) □ 市民活動団体との協働拡充を図る。 <u>環境プラザ事業</u> <ul style="list-style-type: none"> □ さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する。 □ 情報収集・発信を充実させる。 <u>情報センター事業</u> <ul style="list-style-type: none"> □ 人と人、人と情報をつなぐ取り組みを実施し、コミュニティを形成する。

数値目標	【共通目標】			
	①利用者総数	令和3年度	355,000人	令和2年度
				255,000人(見込)
	②事業プログラム参加者総数	令和3年度	33,600人	令和2年度
				20,568人(見込)
③利用者アンケートにおける満足度	令和3年度	86%	令和2年度	
				施設満足度 86% 接遇満足度 86%

部門目標	【部門目標】			
	①男女共同参画センター：男女共同参画の啓発の取り組み	31回	(令和2年度見込 38回)	
	②市民活動サポートセンター：市民活動啓発事業の実施	9回	(令和2年度見込 9回)	
	③環境プラザ：環境活動の機会提供	40回	(令和2年度見込 46回)	
	④情報センター：SDGs の意識啓発につながる取り組み	12回	(令和2年度見込 8回)	

事業内容	時期・回数
1 市民活動振興事業	
(1) 活動支援事業	
〔男女共同参画センター事業〕	
・北海道女性起業家支援ネットワーク事業	通年
・女性の多様な働き方窓口総合受付業務「ここシェルジュ SAPPORO」	通年
・子ども・若者のためのエンパワメント事業	通年 4回程度
・コワーキングスペース事業	・ジェンダーイシューに関わる事業 通年／通年 5回
・ワーク・ライフ支援事業	・子育てや介護の環境整備事業 通年 51回／通年 26回
・女性のための総合相談	・男性のためのワーク・ライフ相談 通年 46回／通年 2回程度
・若年層のための相談	・性的マイノリティ電話相談業務 他 通年 30回／通年 50回
〔市民活動サポートセンター事業〕	
・スタートアップ支援事業	
①NPO 基礎講座	①通年 複数
②NPO 法人フォローアップ講座	②通年 3回
③次世代層向け市民活動促進サポート	③7～12月 複数
・人材養成事業	通年 複数
・NPOとの出会い創出事業	通年 複数
・協働・共創促進事業	
①NPOとの協働・共創事業	①通年 7回／②通年 複数
・市民活動相談	②通年 隨時／通年 12回
・NPO専門相談（税務・会計・法律）	
〔環境プラザ事業〕	
・こどもエコクラブ	・コーディネート業務 通年 隨時
・環境教育リーダー派遣制度	5～3月 80件
・環境保全アドバイザー派遣制度	5～3月 40件
・環境関連施設との連携事業および環境中間支援会議北海道への参加	通年 5回程度
・講座・研修・交流会	他 通年 3回
(2) 職員派遣事業	
・男女共同参画ワークショップ事業	通年 4回
・小・中・高校生への学習対応業務	他 通年 25回
(3) 情報発信事業	
・Webコンテンツ拡充業務	・情報発信サポート事業 通年 隨時
・情報コンシェルジュ業務	・図書管理業務 通年
・市民活動情報誌の発行	8、11、2月 3回
・男女共同参画情報誌「りぶるさっぽろ」の発行	通年 3回
・地下歩行空間「市民まちづくり活動情報コーナー」広報事業	他 通年
2 施設管理運営事業	
・エルプラザ公共4施設の管理業務	通年
・エルプラザ公共4施設の貸室事業、物品貸出等	通年

札幌エルプラザ公共4施設
× SDGs



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

事業方針

財団内外で必要とされる課に

企画事業課は、各種団体や企業からイベントやキャンプを中心とした事業を受託し活動の幅を広げてきたが、新型コロナウィルス感染症の蔓延により一定人数以上が集まることや一部宿泊事業の実施が困難となった。

このような状況の下、令和3年度は、コロナ禍によって大きく変化した人々の行動様式や価値観の現状を正しく捉え、事業の実施方法等を見直すことで新たな形の事業展開を行う。併せて、当課の取り組みを財団全体に広く周知し行き渡らせることで、地域社会に還元していく。また、新規事業「作業従事者安全衛生教育事業」をきっかけに職員間のつながりを強化し、他課との業務連携につなげていく。

重点目標

地域活動等事業

- 収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。
- 新しい生活様式による事業の提案と実施を進める。
- 「あそぼ」等の広報活動の継続と効果的な活用を図る。
- 労働安全衛生法第59条第3項に基づく「特別教育等」を財団内外で実施し、独自の認定書を交付する。

数値目標

【共通目標】

①事業プログラム参加者総数（主催事業）

令和3年度	3,648人	令和2年度	未実施 ※新型コロナの影響により、全ての主催事業を中止
-------	--------	-------	--------------------------------

②利用者アンケートにおける満足度（主催事業）

令和3年度	93%	令和2年度	未実施 ※新型コロナの影響により、全ての主催事業を中止
-------	-----	-------	--------------------------------

【部門目標】

①イベント収益総額

令和3年度	6,700万円	令和2年度	2,900万円(見込)
-------	---------	-------	-------------

②他課連携事業回数

令和3年度	3回	令和2年度	1回(見込)
-------	----	-------	--------

③財団内「特別教育等」実施回数

令和3年度	6回
-------	----

事業内容	時期・回数
1 民間企業等から受託するイベント	
(1) 受託事業(受託型イベント事業) (予定) <ul style="list-style-type: none"> ・さっぽろ雪まつりつどーむ会場制作・運営業務 ・大通西 10 丁目会場における大雪像制作等業務 ・下水道科学館フェスタ 2021 (札幌市下水道河川局) ・「SORA こそだてフェスティバル 2021」遊びコーナー運営業務 他 (札幌コンベンションセンター) 	隨時
(2) 企画提案事業(公募型プロポーザル方式事業) (予定) <ul style="list-style-type: none"> ・水道フェスタ 2021 他 	隨時
(3) 自主企画事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニさっぽろ (ミニさっぽろ実行委員会) ・スポーツキャンプ ・円山動物園との連携事業 (共催事業) 「ZOO ナイトキャンプ」 他 	隨時
(4) 広報事業 <ul style="list-style-type: none"> ・こども情報誌「あそぼ」の発行 ・職員向け広報「きょうかいナウ」の発行 他 	年 6 回 年 12 回
(5) 調査・研究事業 <ul style="list-style-type: none"> ・作業従事者安全衛生教育事業 ・職員研修、外部研修、各種イベント視察 他 	隨時
2 物品貸与等事業	
(1) 活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・当財団管理施設及び外部への物品貸出 他 	隨時



VII 基金事業

(1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成事業

対象分野／子どもの健全育成事業
子どもの地域活動推進事業



(2) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業

対象／子ども・若者の居場所「いとこんち」事業
子ども・若者の社会的自立に向けた経済的な支援事業

こども・若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業

子ども・若者の居場所「いとこんち」事業の様子

札幌市立中島中学校区内にある民泊施設を活用し、おおむね13歳から19歳の子ども・若者を対象に、週3日程度、勉強や食事、料理、入浴等の日常生活を送り、社会的自立を目指す家庭生活体験の場を提供した。



日常の様子



「シングルマザー向けオープンカフェ」の様子

VIII 施設一覧

(1) 自主運営施設

	施設名	所在地	施設内容
1	滝野自然学園	南区滝野 106 番地	宿泊室、食堂／集会室、学習室、野外炊事場等

(2) 指定管理施設

	施設名	所在地	施設内容
1	児童会館	札幌市内 108 か所	体育室、プレイルーム等
2	こども人形劇場こぐま座	中央区中島公園 1-1	ホール
3	こどもの劇場やまびこ座	東区北 27 条東 15 丁目	ホール、工作室、研修室、会議室
4	若者支援総合センター	中央区南 1 条東 2 丁目	活動室等
5	アカシア若者活動センター	東区北 22 条東 1 丁目	活動室、和室、音楽室、体育室等
6	ポプラ若者活動センター	白石区東札幌 2 条 6 丁目	活動室等
7	豊平若者活動センター	豊平区豊平 8 条 11 丁目	活動室、音楽室、体育室等
8	宮の沢若者活動センター	西区宮の沢 1 条 1 丁目	活動室、音楽スタジオ、体育室等
9	北方自然教育園	南区白川 1814 番地	展示室、工作室、多目的室
10	定山渓自然の村	南区定山渓	コテージ、テントサイト、野外炊事棟
11	青少年山の家	南区滝野 247 番地	宿泊室、研修室、多目的ホール、野外炊事場等
12	男女共同参画センター	北区北 8 条西 3 丁目	研修室、会議室、料理実習室、託児室、ホール等
13	市民活動サポートセンター	同上	事務ベース、会議コーナー等
14	環境プラザ	同上	環境研修室
15	消費者センター	同上	相談窓口

(3) 受託施設

	施設名	所在地	施設内容
1	ミニ児童会館	札幌市内 92 か所	小学校内併設
2	千歳市児童館・学童クラブ	児童館 9 か所 学童クラブ 17 か所	遊戯室、学童クラブ専用室等



IX 機構図

